会　議　要　旨

会議の名称	川越市農政モニター平成３０年度第２回会議
開催日時	平成３０年１０月２６日（金） 午前９時３０分　開会　・　午前１１時３０分　閉会
開催場所	福田ビル３階会議室
座長	村川　はつ枝
出席者	川越市農政モニター（９名） 農業者　加藤健一、大河内基行、塩野富雄、沼田敏明 商業者　村川はつ枝 消費者　太田直敬、及川一廣、正木一弘、三井麻希子 事務局 相川副部長、小野寺副課長、小川副主幹、関口主事補
会議次第	１　開会 ２　あいさつ ３　議題 ⑴　川越市で「農のある生活」を充実させるには ⑵　蔵 in ガルテン川越について ４　その他 ５　閉会
配布資料	１　会議次第 ２　「農のある生活」取り組み他市事例 ３　蔵 in ガルテン川越　グリーンツーリズム拠点整備計画概要版 ４　チラシ（川越市場まつり、農業ふれあいセンターまつり）

議　事　の　経　過
1　開会 2　あいさつ（相川副部長） 3　議題 ⑴　川越市で『農のある生活』を充実させるには 事務局より「農のある生活」取り組み他市事例をもとに説明し、委員より質問・意見をいただいた。 【主な意見】 ・農業体験には親と子供が一緒に参加できるものがあるとよい。 ・中学・高校生にも農業体験をしてもらい、大人になる過程で農業から離れないような環境づくりが大切だ。 ・「農ある生活」について他市の事例を参考にする際は、農家の収入増加につながるかどうかという視点で考えるべきだ。 ・旬の農産物や料理、イベント情報を SNS 等で情報発信するとよい。 ・農産物の直売は消費者に来てもらうというより、ある程度人が集まるところに開催側が赴くと効果的だ。 ⑵　蔵 in ガルテン川越について 事務局より「蔵 in ガルテン川越　グリーンツーリズム拠点整備計画概要版」をもとに説明し、委員より質問・意見をいただいた。 【主な意見】 ・伊佐沼周辺の農業体験に来てもらうには、一番街を観光した後では荷物が多くなるので難しい。スタンプラリー等を取り入れ、川越 IC から回ってこられるように小さな農業体験を点在させ、東回りや南回りなどで中心の伊佐沼に寄せてくるような形にすると、川越全体が農業によって活性化する。 ・伊佐沼は公共交通機関のみの移動手段の人にとっては立地的に弱い。 ・伊佐沼に大きな施設 1 箇所を造るのではなく、市内の様々な場所に仮設も含めて農産物の販売所があれば自転車で回っても面白い。 ・蔵 in ガルテン川越の施設は全て一辺に造るのではなく、優先順位を付けて、効果があれば徐々に広げていくとよい。 ・BBQ を手ぶらで可能にするのであれば、米、肉、野菜などを地元農業者から仕入れるべきだ。 ・BBQ、体験農園、市民農園などを「手ぶらでできる」をうたい文句に、効果を確認しながら広げていくとよい。

・落ち葉や稲わら、家畜糞を使って有機肥料を作るなどの農業と関連のあるイベントを開催するとよい。
・ドッグランがあるとよい。ビデオや 3D を活用して川越農業の疑似体験ができるような部屋があるとよい。
・四季を通じて楽しめる花畑があるとよい。
・蔵 in ガルテン川越における体験農園等に市内の畜産農家で作っている堆肥を活用してほしい。また、依頼があれば農畜産物の提供を行う。

4　その他

【主な意見】

・農地集積を進めるに当たり、農地を貸すと地代が入ってくるのではなく、逆に管理料を払うような現状では、耕作放棄地をなくすことは難しい。農政だけで解決できる問題ではない。

5　閉会